

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ほこあぼこ		令和8年 4月 10日				
	チェック項目	はい		いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		8	0			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	利用児童数や活動内容に応じて空間の使い分けを行い、集団活動と個別活動の双方に対応できる環境を整備している。また、安全面に配慮しながら活動動線を整理し、児童が安心して過ごせるスペース確保に努めている。	活動内容の多様化や個別支援ニーズの高まりに対応できるよう、引き続き空間活用の工夫を行い、安全性と活動の充実の両立を図っていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	児童の特性や活動内容に応じた職員配置を行い、安全確保と個別支援の充実を図っている。また、必要に応じて柔軟に役割分担を調整しながら支援体制を整備している。	多様化する支援ニーズに対応できるよう、専門性の向上を図りながら継続的な支援体制の充実を図っていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	視覚支援や活動導線の整理、掲示物の工夫等を行い、児童が活動内容を理解しやすい構造化された環境づくりに取り組んでいる。また、障害特性に応じた配慮を行い安心して過ごせる環境整備を行っている。	児童の特性や支援内容の変化に応じて環境設定を見直しながら、より理解しやすい支援環境の充実を図っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	日常的な清掃・整理整頓を徹底するとともに、感染症対策を含めた衛生管理を行い、児童が安心して活動できる環境を維持している。また活動内容に応じた空間調整を行っている。	今後も安全性・快適性の両面に配慮した環境整備を継続し、児童が落ち着いて過ごせる環境づくりに努めている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	児童の状況や支援内容に応じて個別対応が可能となるよう空間の使い分けを行い、安心して過ごせる環境づくりを行っている。また情緒面への配慮として静かな空間確保にも取り組んでいる。	児童の特性に応じた個別対応がより適切に行えるよう、引き続き環境調整を行っていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	日々の支援の振り返りや職員間の共有を通して課題の把握を行い、支援内容の改善につなげている。また定期的なミーティングを通じて支援方針の確認と見直しを行っている。	職員全体での課題共有をさらに深めながら、組織的な改善サイクルの充実を図っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	保護者アンケートを実施し、その結果を職員間で共有するとともに支援内容や運営体制の見直しに活用している。	アンケート結果の周知方法や改善内容の可視化を進めながら、より効果的な業務改善につなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	日常的な職員間の情報共有や会議を通じて意見交換を行い、支援内容や運営の改善につなげている。	職員の気づきや提案をより組織的に活用できるよう共有体制の充実を図っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	4	外部研修や関係機関との連携を通して外部の視点を取り入れながら支援の質の向上に努めている。	第三者による評価を受ける機会について検討し、外部評価結果を業務改善に活用できる体制づくりを進めていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	外部研修への参加や事業所内での情報共有を行い、職員の専門性向上に努めている。また日常の支援の振り返りを通して実践的な学びを深めている。	継続的な研修機会の確保と研修内容の共有体制を強化し、支援の質のさらなる向上を図っていく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	事業所の支援方針に基づき年間を通じた支援プログラムを作成するとともに、活動内容や支援のねらいが保護者に伝わるよう通信や説明の機会を通じて情報提供を行っている。	支援プログラムの目的や意図がより分かりやすく伝わるよう情報発信の方法を工夫し、理解の促進に努めている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	1	児童の発達状況や生活背景、保護者の意向等を踏まえたアセスメントを行い、個々の課題やニーズに応じた個別支援計画の作成を行っている。	支援ニーズの変化に応じた継続的なアセスメントの充実を図りながら、より実態に即した支援計画の作成に努めている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	児童発達支援管理責任者を中心に関係職員が情報共有を行いながら児童の最善の利益を考慮した支援計画の作成を行っている。	職員間の情報共有体制をさらに充実させながらチームによる支援計画作成の質の向上を図っていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	個別支援計画の内容を職員間で共有し、日々の支援の中で目標に沿った支援が実施できるよう連携を図っている。	計画と実践の連動をより高めるため、振り返りの機会を活用しながら支援内容の充実を図っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	3	日々の行動観察や活動場面での様子を記録し、児童の変化や課題の把握に努めている。また保護者との情報共有を通じて支援の方向性の確認を行っている。	標準化されたアセスメントツールの活用を含めた評価方法の整理を進め、より客観的な支援評価につなげていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	3	本人支援を中心に家族支援や移行支援の視点も踏まえながら支援計画の作成を行っている。	地域連携や移行支援の視点も含めた支援内容の整理を進め、ガイドラインに沿った支援の充実を図っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	職員間で意見交換を行いながら児童の特性や発達段階に応じた活動プログラムの立案を行っている。	活動内容の振り返りを通してプログラムの質の向上を継続して図っていく。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	季節行事や制作活動、運動活動、社会性を育てる活動等を組み合わせながら多様な経験ができるよう工夫している。	児童の興味関心の変化に応じた活動内容の見直しを行いながら支援内容の充実を図っていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	1	児童の発達段階や特性に応じて個別活動と集団活動を組み合わせながら社会性や自己理解の向上につながる支援を行っている。	個々の支援目標に応じた活動設定の充実を図りながら、より効果的な支援の実施に努めていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	支援開始前に職員間で当日の活動内容や役割分担の確認を行い、安全で統一した支援が行える体制を整えている。	情報共有の精度を高めながらチーム支援の質の向上を図っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	支援終了後には職員間で当日の様子や支援内容の振り返りを行い、児童の変化や気づきを共有することで次回の支援につなげている。	振り返り内容の整理と記録の活用を進めながら、より効果的な支援改善につなげていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	日々の支援内容や児童の様子について記録を行い、支援の検証や改善に活用している。また職員間で情報共有できる体制を整えている。	記録内容の具体性を高めながら支援計画への反映を強化していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	2	日々の支援記録や児童の変化を踏まえながら支援内容の見直しを行い、必要に応じて支援方法の調整を行っている。	利用頻度の差に関わらず適切なタイミングでモニタリングが実施できるよう体制の整理と周知の充実を図っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	1	生活能力向上のための支援、創作活動、地域交流、余暇活動等を組み合わせながら児童の発達段階に応じた支援を行っている。	活動内容のバランスを継続的に見直しながら支援の質の向上を図っていく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	児童が活動内容を選択する機会を設けるなど主体的に活動へ参加できるよう支援を行い、自己決定力の育成につなげている。	選択機会のさらなる充実を図りながら主体性を育てる支援を継続していく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	サービス担当者会議等に児童の状況を把握している職員が参加し、関係機関との情報共有を行いながら支援の方向性を確認している。	会議内容の共有体制をさらに充実させながら組織全体での理解を深めていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	学校や関係機関と連携しながら児童の状況に応じた支援が行えるよう情報共有を行っている。	関係機関との連携内容を整理しながら支援体制のさらなる充実を図っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	2	送迎時の情報交換や保護者を通じた情報共有を行いながら児童の状況把握に努めている。	学校との情報共有の機会を増やし、より連携の取れた支援体制の構築を進めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	3	保護者からの聞き取りや提供資料をもとに児童のこれまでの支援経過を把握し支援に活かしている。	関係機関との直接的な情報共有の機会を検討し、支援の連続性を高めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	0	卒業後の進路を見据えた支援を行いながら必要に応じて関係機関への情報提供を行っている。	進路移行に関する情報共有の充実を図りながら円滑な移行支援につなげていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	8	外部研修や関係機関との情報交換を通して支援の質の向上に努めている。	児童発達支援センターとの連携体制の構築に向け情報収集や相談機会の確保を進め、専門的助言を支援に活かせる体制づくりを行っている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	公園活動等を通して地域の子どもと自然な形で交流できる機会を設けている。	地域資源の活用や交流機会の拡充を検討し、計画的な地域交流の機会づくりを進めていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	3	地域の関係機関との情報交換を通して支援の質の向上に努めている。	自立支援協議会等への参加機会を広げながら地域との連携強化を図っていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	連絡帳や送迎時の情報共有を通して児童の状況や変化について保護者と共通理解が図れるよう努めている。	情報共有の機会を継続的に確保しながらより丁寧な連携を進めていく。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	面談や日常的なやり取りを通して家庭での関わり方や支援方法について情報提供を行っている。	家族支援プログラムや研修機会について周知方法を工夫し、参加しやすい機会づくりを進めていく。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	1	利用開始時に運営規程や支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行い、保護者が理解しやすいよう具体的な活動内容を示しながら説明を行っている。	説明機会の確保と内容の分かりやすさの向上を図りながら、保護者の理解がより深まるよう工夫していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	児童の発達状況や保護者の意向を確認しながら個別支援計画の作成を行い、最善の利益を優先した支援内容となるよう配慮している。	児童の小さな変化や意思表出にも着目しながら意向確認の機会を継続的に確保していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	1	個別支援計画の内容について説明を行い、保護者の理解と同意を得たうえで支援を実施している。	計画内容の意図や支援のねらいがより分かりやすく伝わるよう説明方法の工夫を行い、理解の促進につなげていく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1	送迎時や日常的なやり取りの中で保護者の不安や困りごとを把握し、必要に応じて面談や助言を行う体制を整えている。	相談機会についてより周知を行い、保護者が相談しやすい環境づくりを継続していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	0	懇親会等の機会を通して保護者同士が情報共有できる場を設け、安心して相談できる関係づくりを行っている。	参加しやすい形式や開催方法を検討しながら交流機会の充実を図っていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	苦情や要望があった場合には迅速に対応し、経過や対応内容を丁寧に説明することで安心して利用できる体制を整えている。	相談・苦情対応体制についての周知を継続しながら安心して意見を伝えられる環境づくりを進めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	通信やブログ等を通して活動内容や行事予定、児童の様子を継続的に発信し、日々の支援状況が伝わるよう取り組んでいる。	発信内容がより分かりやすく届くよう情報提供の方法を工夫し、保護者との情報共有の充実を図っていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報は適切に管理し、書類やデータの取扱いについて職員間で共有を行いながら安全管理を徹底している。	個人情報保護に関する意識の維持向上を図りながら適切な管理体制を継続していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	2	児童や保護者の理解しやすい方法を工夫しながら情報提供を行い、安心して意思表示ができる環境づくりに努めている。	児童の特性に応じた意思表出支援や情報伝達方法の充実を図りながらより丁寧な支援につなげていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	5	公園活動や地域清掃活動等を通して地域との関わりを持つ機会を設けている。	地域住民との交流機会の創出に向け、参加しやすい行事や小規模な交流機会の設定について検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを整備し、職員間で共有するとともに日常の支援場面において活用している。また、必要に応じて訓練を実施し安全意識の向上に努めている。	各種マニュアルの内容について保護者への周知方法を工夫しながら、安全対策への理解を深めていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	業務継続計画を策定し、災害発生時を想定した避難訓練等を定期的実施することで安全確保に努めている。	訓練内容や実施状況について保護者への情報提供を充実させながら、非常時対応への理解促進を図っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	利用開始時の聞き取りや定期的な情報確認を通して服薬状況や既往歴、てんかん発作等の健康状態を把握し、安全に配慮した支援を行っている。	健康情報の更新状況を継続的に確認しながら安全管理体制の維持に努めていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	医師の指示書や保護者からの情報をもとに食物アレルギーの状況を把握し、安全に配慮した対応を行っている。	情報共有体制の維持と確認の徹底を図りながら安全な支援環境の継続に努めていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	安全計画を作成し、研修や訓練を通して安全管理体制の強化を図るとともに日常の支援の中で安全確保を意識した対応を行っている。	安全計画に基づく取組内容の確認を継続しながら実効性の高い安全管理体制の維持に努めていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	安全確保に関する取組内容について通信や説明の機会を通して保護者へ情報提供を行い連携を図っている。	安全計画の内容がより理解しやすく伝わるよう周知方法の工夫を継続していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハット事例を職員間で共有し再発防止策の検討を行うことで事故予防につなげている。	事例共有の継続と分析の充実を図りながら安全意識の向上に努めていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	虐待防止研修の実施や職員間での情報共有を通して虐待防止への理解を深め適切な支援体制の維持に努めている。	虐待防止に関する知識の継続的な更新を行いながら組織全体での意識向上を図っていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	身体拘束を行う場合の手続きについて組織として基準を定め、事前説明と同意のもと個別支援計画に記載する体制を整えている。	身体拘束に頼らない支援方法の検討を継続しながら適正な支援体制の維持に努めていく。	